

平成18年度 こどもログハウス事業計画書

I、瀬谷区区民利用施設協会の経営方針

【経営の理念】

協会は、「ボランティア精神の下に、非営利の公共的団体」としてのアイデンティティーの下に、設立以来一貫して「公の施設」の管理運営に取り組んできた。

社会環境の変化と住民ニーズの多様化している今日、区政は「横浜市新時代行政プラン」と「瀬谷区区政運営方針」の推進により区民満足度の向上を目指して大きく変わっている。

それと同時に当協会も公共的団体が持つ良い点に加えて、民間事業者が持っている優れた点を積極的に導入することにより、新たな視点をもって協会の変革を進める。

このことにより、効率的でかつ、より利用者満足度の高い施設運営を通して、大きく地域福祉の向上や社会貢献に資することができるものと確信している。

【経営方針】

- 1、指定管理者制度の制度主旨にのっとり、施設運営の効率化と利用者サービスの向上を推進します。
協会は NPO 法人化により地域活動や付加価値の高い趣味・文化・スポーツ活動等の交流の場を長期安定的に提供します。
- 2、地域ニーズを反映させた運営を進めることにより、地域・団体との信頼関係を強め、パートナーシップを構築に努めます。また、地域やNPO法人と連携・協働できるチャンネルを開設し、共生を進めます。
- 3、コーポレート・ガバナンス（Corporete Governance＝経営の自立化）の確立に務めます。
 - （1）持続的安定運営のため、向こう1年程度以内に「NPO 法人化」を目指します。
 - （2）意思決定機関（理事会）と執行機関（協会事務局）との調和ある関係保持。
 - （3）協会事務局と各施設との連携強化。
 - （4）協会運営の透明性向上のため、情報開示（バランス・シート、施設情報等）の推進。
 - （5）区行政との緊密化・連携強化。
- 4、協会のCSR（社会的責任＝Corporate Social Responsibility）の確立
 - （1）コンプライアンス（法律遵守・企業・団体倫理）の徹底。
 - （2）男女共同参画社会に向けた人材活用の推進。
 - （3）人権啓発の推進。個人情報保護対策の確立。
- 5、社会貢献活動の推進
 - （1）循環型社会に向けた環境保全への取り組みの推進。
 - （2）多彩な自主事業企画の推進や区民活動支援センターとの連携による地域活動や生涯学習活動の支援。
- 6、リスク・マネジメントの徹底
 - ①、風水害・集中豪雨・大雪対策 ②、大規模地震時対策 ③、その他の緊急・利用者安全対策

以上に基づき経営を進めます。

Ⅱ、こどもログハウスの管理運営事業

こどもログハウスの管理運営事業を次により実施する。

1、施設概要

- | | |
|----------|--|
| (1) 施設名 | 横浜市 瀬谷中央公園 こどもログハウス |
| (2) 所在地 | 横浜市瀬谷区本郷二丁目28番地4 |
| (3) 建物概要 | ①、竣工時期 平成 5年 5月 |
| | ②、構造 木造（小屋裏あり） |
| | ③、階数 地上1階建 |
| | ④、延床面積 274.899. m ² |
| | ⑤、施設内容 1階：エントランススペース、活発なスペース、静かなスペース、小さなアルコーブ、小屋裏スペース、小屋裏迷路、地下迷路、倉庫、トイレ、水飲み場、見守る人のスペース（事務室） |
| | ⑥、屋内遊具 スパイラル・スライダー（滑り台）、バスケット・ゴール、登り棒、ハンモック、ネット階段、こどもエレベーター、はしご、こぶし付きロープ、板壁登り、すのこ橋、ネットチューブ、丸太平均台 |
| | 屋外：駐車場、駐輪場、 |

2、施設協会が行う業務内容

- (1) こどもログハウスの運営に関する業務
- (2) こどもログハウスの維持管理に関する業務
- (3) こどもの健全育成のための自主事業の実施に関する業務

3、管理運営事業の人員体制

- ・ 連絡員を含むスタッフによるローテーション体制・・・・・・10名

計10名

4、こどもログハウスの管理運営方針

(1) こどもログハウスを管理運営する理由について

- ①、地域のこども達に、身近なところで安全で自由な遊び場を提供することにより、将来の瀬谷を担うこども達の成長を見守り育て、支援して行きたいため。
- ②、非営利の公共的団体としての特性を活かしつつ、民間事業者の優れた点を導入すれば、指定管理者制度が求める「運営の効率化」と「利用者サービスの向上」の要請に十分応えることが可能で、こども達の健全育成を推進し、地域の住民福祉の向上に役立ちたいと願うため。
- ③、当協会による施設運営の長年の経験と実績により、管理運営に関するノウハウの蓄積があり、地域の信頼と支持が得られていると考えます。少子高齢化時代の今日、こどもログハウスの運営を通じて、行政ニーズでもある子育て支援の一端を担って行きたいため。

《 参考 》

【こどもログハウス設置目的】

以前のこども達は、身近な野山の自然の中で日が暮れるまで走り回って遊び、学んで育ってきました。勉強は大切ですが遊ぶことも大切です。テレビゲームだけでなく、友達同士が集まってワイワイと遊ぶのも楽しいものです。

こども達が、身近なところで木の温もりを感じながら事由に集い遊ぶことにより、こども同士の遊びを通して、家庭では体験できない創造力や表現力を育む屋内公園施設です。

【運営への反映の考え方】

上記の設置目的を達成するためには、利用するこども達の声や保護者の声を聞きつつ、地域の運営委員会の議論を通じて、地域ニーズやこどものニーズを的確に把握し、管理運営や事業の実施に反映させていくことは極めて大切なことと考えています。

- (1) 地区センターの設置目的である「地域の住民が自らの生活環境の向上のために自主的に活動し、スポーツ、レクリエーション、講演会、研修会、サークル活動などを通じて相互交流を深める。」ことを目的とします。
- (2) これらの活動をきっかけに地域コミュニティの醸成、地域連帯意識の形成を図っていくため幼児からお年寄りまでの幅広い層の市民が、誰でも気軽に利用できる区の中心部方面の中心的施設として管理運営を進めます。
- (3) 設置目的を達成するために、運営委員会や利用者会議等を通じて、また、アンケート等を通じて地域ニーズや利用者ニーズを的確に把握し、管理運営や事業の実施に反映させます。

5、地域ニーズや利用者ニーズの捉え方と運営への反映の考え方

(1) 地域ニーズの捉え方

- ・ 地域関係団体を代表する委員で構成される運営委員会を活用してニーズを把握します。
- ・ 施設情報誌の発行やホームページの開設等で情報発信に努め、地域ニーズを把握します。
- ・ 地域住民利用者との日常対話の中から地域ニーズを把握します。
- ・ 利用者アンケートを実施し、地域ニーズや利用者ニーズを把握します。
- ・ 館内に「ご意見箱」を常設し、地域ニーズを把握します。

(2) 利用者ニーズの捉え方

- ・ 利用者アンケートを実施し、地域ニーズや利用者ニーズを把握します。
- ・ 施設利用団体を代表する会員で構成される利用者会議を活用してニーズを把握します。
利用者会議には、個人利用者も参画して頂き、幅広い意見の集約に努めます。
- ・ 施設情報誌の発行やホームページの開設等で情報発信に努め、利用者ニーズを把握します。
- ・ 地域住民利用者との日常対話の中から利用者ニーズを把握します。
- ・ 必要に応じて、更に利用者アンケートを行い、利用者ニーズを把握します。
- ・ 館内に「ご意見箱」を常設し、利用者ニーズを把握します。

(3) 反映の考え方

- ・ 前例に捉われることなく、柔軟な発想で迅速な対応に努めます。
- ・ ニーズに即応できない場合でも、理由と代替案を示して説明責任を果たします。
- ・ 反映結果は、全て運営委員会や利用者会議へ報告し、評価を仰ぎます。

こどもログハウスに対する地域及び利用者のニーズは以下の通りと把握しています。

(ア) こどもの施設であることから、まずは「安全で、安心して利用できること。」

(イ) こども達が、身近で気軽に、伸び伸びと「自由・闊達に遊べること。」

(ウ) こども達のたくましく、元気に成長していくのを見守って行きたいこと。

(エ) 社会や家庭の環境が変化していく中で、こども達同士の社会の中で仲間作りや友達との関わり方を遊びを通じて学んで行って欲しいこと。

(オ) こどもに人気があり、親子で楽しく参加できる魅力のある自主事業を沢山実施して欲しいこと。

等と把握しています。

(1) 地域及び利用者のニーズを踏まえたうえでの、横浜市瀬谷中央公園こどもログハウスの運営の考え方 についてですが

(ア) 施設運営には「安全第1」に運営に努め、安心して利用できるように努めます。

(イ) 施設協会の運営のモットーを

利用には一定のルールがありますが

「施設も利用もバリアフリー!!」「管理からサービスへパラダイム・チェンジ!!」「来て見て良かった。また来てみたい!!」

と言って頂けるようにキャッチ・コピーを設定しました。楽しく気持ちよく利用していただける運営を目指します。

(ウ) こどもログハウスの運営を通じて、こども達の成長を見守り、地域の若いお母さん達の子育て支援の一助に役立ちたいと考えています。

(エ) こどもログハウスの利用を通じて、家庭や学校では体験できない自然と木のぬくもりのある世界でこども達だけの世界の社会勉強をしてもらい、将来の成長に期待したいと考えています。

(オ) 社会や家庭環境が変化していく中で、日本の良き伝統・文化・風習等が、家庭では出来ない又は無くなっていく傾向にあります。そこで、こどもログハウスでは特長として、自主事業を通じてこれらの行事を実施して参ります。

各企画とも多くの親子連れが参加して、大変好評裏に進められています。

(ア) サービスの提供に関する基本的な考え方について

地域のこども達の遊びやコミュニケーションの拠点として、安全・安心な“良き遊びの場を提供”し、きめ細かな注意をもってこども達の成長を“見守りサポートして行く”ことが「サービス」と考えます。

また、これからも、このこどもログハウスには、誰でもが・気軽に・自由に来館できる環境を保って行くことが大切と考えています。

(1) こどもログハウス機能の拡大・保全

①、身近なこどもログハウスは、午前9時から午後5時まで、また土・日曜も開館しており、例え

- ば近隣市・区の子ども達同士の交流の場としても寄与して行くことが可能と考えます。
- ②、各種自主事業の継続展開などにより、利用者層の拡大を図って参ります。
 - ③、老朽化した遊具の補修・更新や、時代の変化に対応した遊具の新規導入等も検討し、機能の保全に努めて参ります。

(2) 職員の意識改革の推進

- ①、職員全員が「施設の管理者」から「サービス提供者」への意識改革を実践して行きます。
- ②、意識改革のために、職員から目標となるコピー・ロゴタイプを募集・制定しました。
有効に活用を進めます。(別紙資料 参照。)

(3) 職員の資質の向上

- ・ 接遇研修・運営実務研修・人権啓発等各種の研修を実施して行きます。
- ・ 施設間で適切に人事交流や登用等の人事措置を検討して参ります。(別紙資料 参照。)

(4) 利用環境の整備・向上

- ①、利用者サービス備品の整備・補修を進めます。
- ②、施設内外の安全管理はもとより、清掃や換気・騒音等の管理に留意しています。

1、自主事業に対する基本的な考え方ですが、

自主事業の実施は、「こどもログハウスの設置理念」をより効果的に具現するために最良の施策と考えます。

自主事業は、全スタッフが相互に相談しながら館独自の企画で実施していますが、この事業の目的は、こども達のニーズを把握して、年齢・性別などに偏らず、多くのこどもが気軽に参加できる様々な事業を展開することにより、施設を知ってもらい、また、こども達の新しい世界となる友達づくりやグループ形成のきっかけ作りの場を提供するところにあります。

こどもログハウスはこども専用施設ですのでこども達が天下の世界となります。

当協会としては、こども達に人気のある「事業テーマ」を中心に設定し、こどものニーズを反映させた様々な魅力あるメニューの事業企画を展開して参ります。

平成18年度 自主事業計画

事業名	対象	参加人員	回数
こいのぼり	小学生以下だれでも	40	1
スタンプラリー	中学生以下だれでも	300	1
七夕	同上	60	1
夏休み工作	同上	40	1
十五夜	同上	100	1
十三夜飾りつけ	同上	100	1
やきいも会	同上	150	1
クリスマス会	同上	200	1
おはなし会	同上	120	6
凧つくり会	同上	40	1
豆まき	同上	40	1
おひな様	同上	40	1
新入生お祝いワッペン	小学入学生だれでも	100	1
計		1,330	18

こどもログハウスの管理に関する業務の収支予算書

(単位:千円)

			内 訳	金 額
収入合計(A)			①+②=A	6,441
項	①指定管理費		人件費～管理費分 事務経費 ①小計	6,437
	②その他収入		雑収入、事業収入等	4
支出合計(B)				6,441
目	人件費		スタッフ賃金、アルバイト賃金 労災保険料等	4,899
	事務費		消耗品費、通信費、備品購入費 損害賠償保険等	265
	事業費		自主事業費	112
	管理費		清掃費、修繕費、機械警備費 その他保全費(廃棄物等)	433
	事務経費	指定管理 費より支出	事務局経費	498
			租税公課、諸費	234
収支(A)－(B)				0